

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	呉立吉浦小学校		
学校長氏名	黒川 真男	栄養教諭氏名	小羽田 宏子
職員数	27名	児童・生徒数	343名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 児童は、食に関する知識は豊富で、授業の時の質問やクイズなどもしっかり答えている。自分にとって将来どのような食習慣がよいか理解はできている。しかし、実際に自分の行動に移すまでに至っていない児童がみられる。
- 野菜や豆製品や魚など苦手な食品を少しずつでも頑張っ食べようとする意識が低い児童がいる。
- 毎日朝ごはんを食べる子 100%を目指しているが、できていない児童があと少しおり、固定化されている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

元気な心と体を育む規則正しい生活と望ましい食習慣の形成

-さわやかな朝のスタートをするために「毎日朝ごはんを食べる子100%」を目指す-

- 「触・植・食」体験の満足度を95%以上
- 「朝ごはんを食べることは大切だと思う」肯定評価100%
- 「給食の時間が楽しい」肯定評価95%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】(テーマ)「触・植・食」活動の取組

吉浦小学校では食育の中心活動として、各学年の発達段階に応じて植物に触れ、育てて食べる「触・植・食」活動を行っている。その活動によって食べ物を育てることの大変さを体験し、食べ物に対する感謝の気持ちを育てるとともに、食に関する関心を深めるように取り組んだ。

・活動内容

- 1年生 とうもろこしを育ててポップコーンを作って食べた。
- 2年生 トマトを育てて食べた。
- 3年生 地域の吉浦漁協の方に貝ほりを教えていただいた。枝豆を育てて食べた。
- 4年生 なすとピーマンを育ててピザを作って食べた。
- 5年生 バケツ稲を育てた。地域のみそ屋さんに指導してもらい、みそ造りをして家庭科のみそ汁づくりに使用した。
- 6年生 地域の吉浦女性会の方といっしょに芋だんごを作って食べた。

・活動の前後に栄養教諭が授業を行い、活動時には地域の方の協力を得、児童の感想や写真などの記録を残し、ぱくぱく通信（食育通信）に掲載し、家庭、地域に啓発した。

・活動の評価

「触・植・食」活動の前の5月と活動後の2回アンケートを実施し、児童の活動前後の食物に関する意識や感謝の気持ちなど、意識の変容を把握することで食育の充実に役立てた。

【取組2】(テーマ) 各教科における栄養教諭の取組(朝食の大切さについて考えよう)

年間指導計画に基づき各教科において担任、教科担任と連携しながら授業を行った。

6年生には家庭科の授業の中で「朝食の大切さを知ろう。」というテーマで教科担任と連携を取りながら授業を行った。授業には呉市から配布されている「呉の食育指導資料集」を活用して、自分たちが毎日食べている朝食について振り返らせ、「朝食にはどんな役割があるか。」「なぜ朝食が大切か。」など自分でできる朝食について考えさせ、家庭科でもいろいろ実習することを指導した。

授業の中で児童に書かせたワークシートの感想には、「お手伝いをがんばりたい。」「朝ごはんの大切さがよく分かった。」「今度から自分で朝ごはんを作りたい。」などがあり、朝食の大切さだけでなく家族の一員として自分でできることをしていこうとする意欲が感じられた。

【取組3】(テーマ) 呉市独自の取組(減塩について)

呉市では、保健所と連携して「減塩を心がけよう」というリーフレットや減塩レシピを作成し、給食献立でも手作りすることで調味料を減らすなどの取組を行っている。吉浦小学校では望ましい食習慣の形成のため、6年生に減塩についての授業を行った。保健所のリーフレットを活用して、自分の日頃の塩分の取り方について振り返らせ、なぜ減塩が必要なのかを考えさせた。どんな食品に塩分が多いか実物の塩を提示し、減塩するためのポイントなどについて指導した。リーフレット、レシピ集は授業後、家庭に持ち帰らせ、家庭でも話題にしてもらい家庭からもコメントをもらうようにした。



授業中「こんな食品に塩分が多いんだ。」「自分は塩分の取り方が多いな。」などの感想があり、思ったより塩分を取り過ぎていることを改めて意識したようである。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組

吉浦小学校では次のような取組を行った。

- 掲示板の給食コーナーに「ひろしま給食100万食プロジェクト」について掲示し、啓発した。
- 夏休みに行った親子料理教室において「ひろしま給食100万食プロジェクト」のメニューを調理し「つくってみんな たべてみんな 栄養満点ひろしま給食。」というキャッチコピーの取組を実践した。
- ぱくぱく通信(食育通信)に「ひろしま給食100万食プロジェクト」の趣旨やレシピを掲載し、作って食べた感想を募集した。そして次号の「ぱくぱく通信」に掲載し啓発した。
- ひろしま給食100万食の献立の日に試食会を行い、保護者や地域の方に試食していただき、アンケートを書いていただくなどして啓発した。
- 地域のスーパーマーケットにレシピを置いていただき、地域に啓発した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】 児童は食についての知識は豊富で、授業の内容もきちんと理解し、担任や栄養教諭の食に関する質問に対して、積極的にしっかり答える児童が多い。

給食コーナーの掲示や給食放送もよく聞いており、クイズや掲載している内容もよく把握している。「給食カレンダー」に教室からの意見を書いて給食ポストに入れるコーナーを掲載しており、多くの意見が寄せられ、関心が高い。

吉浦小学校の食育の特徴の1つである「吉浦元気汁」についても、自分たちの学校で考えられ、給食にも取り入れられていることに誇りを持ち、委員会活動においても学級訪問をして「吉浦元気汁を飲もう。」と啓発している。クラブ活動や親子料理教室でも元気汁を作りたいと希望する児童が多く、毎年食育通信に作り方のレシピを掲載している。

児童のさわやかカードのアンケート結果で、毎日朝ごはんを食べたところたえた児童は 96.8%、「吉浦元気汁」をたべたと答えた児童は 55.4%であった。

「触・植・食」体験後に児童に行ったアンケートの結果では、「植物を育ててよかったと思う。」と答えた児童は 90.6%、「給食の時間が楽しい。」と答えた児童は 90.1%「食べることは大切だと思う。」と答えた児童は 98.3%であり、多くの児童が「触・植・食」体験について興味をもって取り組めた。

「ひろしま給食100万食プロジェクト」では、給食学習会（試食会）、親子料理教室、給食掲示、ぱくぱく通信（食育通信）への掲載や作ってみての感想の募集、給食放送、地域のスーパーマーケットへレシピを置いてもらうなどの取組により児童、家庭、地域に啓発することができた。

このようにさまざまな取組の結果、食べ物や食について興味を持ち、よりよい生活習慣のためにはどんなことに気をつけなければならないか理解できてきている。さらにその知識を自分の生活習慣の改善につなげていこうとする意欲が持てるようになってきている。保護者、地域にも食の大切さについて啓発することができた。

【課題】

「触・植・食」体験後に児童に行ったアンケートの結果では、「植物を育ててよかったと思う。」と答えた児童は 90.6%、「給食の時間が楽しい。」と答えた児童は 90.1%「食べることは大切だと思う。」と答えた児童は 98.3%であり、多くの児童が肯定的な評価ではあるが、すべて目標値を達成できていないので、今後児童の食に対する興味や関心がさらに深まるような工夫が必要と思われる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

「触・植・食」体験の取組や食育の授業で、食物を作る大変を実感することから食べ物に感謝する心を持ったり、健康のためにどんな食べ方をするのがよいかなど、児童が食に関する感謝の気持ちや食に関する知識が高まるよう工夫する。その中で得た知識を実際の自分の生活に生かせるよう家庭、地域と共に取り組んでいきたい。そして、吉浦小学校の食育の柱である「毎日朝ごはんを食べる子 100%を目指して」の目標に近づけるよう、学校においては、今後さらに教育活動全体で計画的に食育の指導を進め、食育の内容を教職員全体で共通認識するためにより連携を深めていきたい。家庭、地域においては、学習内容を家庭に知らせ、地域への啓発などを行い、連携を深めることによって児童に行動の変容がみられるよう指導していきたい。